

廃棄物学会ニュース

Japan Society of Material Cycles and Waste Management

廃棄物学会は、2008 年 12 月 1 日から一般社団法人廃棄物資源循環学会となりました

No.109

廃棄物資源循環学会

廃棄物資源循環学会総会及び記念特別講演

2009年5月25日に川崎市産業振興会館で開催

企画運営委員長 西垣正秀

1990 年 3 月 27 日に発足しました廃棄物学会は、諸先輩の努力により今年設立 20 周年を迎えます。さらに、昨年 12 月 1 日に念願であった一般社団法人に登録を行いました。法人化にあたっては、学会が取り扱う廃棄物の処理・処分から、3R (Reduce、Reuse、Recycle) 推進をはかる循環型社会、自然共生社会、低炭素社会の実現に貢献する意味から、学会名称も「一般社団法人廃棄物資源循環学会」に改められました。ここであらためて学会の「使命」と「目指すべき指標」を確認しておきたいと思います。

「学会の使命」

物質循環と廃棄物管理に関する学の体系化を進め、学術的立場から社会の先導的役割りを担い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献します。

「学会の目指すべき指標」

1. 学術的な立場から社会に向けて積極的に情報発信・問題提起・提言を行い、循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献します。
2. 社会との密接なコミュニケーションに基づき、多様な主体の参加と幅広い学術的基盤の上に実学を志向する総合学会として社会に貢献します。
3. 国際的な学術的連係の中で、学術的コミュニティー間のパートナーシップを構築し、相互の学問の発展を通して循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献します。

5 月 25 日（月）に予定されている総会は、一般社団法人廃棄物資源循環学会としての最初の総会であり、学会設立 20 周年にあたる記念総会となります。ご存知のように、総会は、会員各位に学会の事業活動と運営について、ご審議いただくもっとも重要な会議であり、一般社団法人としての定款に則った総会となります。また、特別記念講演として、東京工業大学の鈴木基之先生に講演をお願いしております。

従いまして、記念総会の開催に向け、多くの会員の出席をお願いいたします。

当日の総会及び関連記念行事の概要は次のようになります。

□開催日時 平成 21 年 5 月 25 日(月) 14:00～

□開催場所 川崎市産業振興会館(JR 川崎駅徒歩 7 分)

◆平成 21 年度廃棄物資源循環学会総会

平成 20 年度の事業報告・決算報告、21 年度の事業計画・収支予算審議他

◆20 年度学会賞表彰および記念講演

20 年度大賞、功績賞、論文賞、著作賞、奨励賞表彰者の記念講演を企画しています。

◆特別記念講演

講演者 鈴木 基之氏 東京工業大学 監事

講演テーマ「 未定 」

◆20 周年式典および意見交換会

17:30～20:00

学会運営に貢献された方への感謝状の贈呈、来賓祝辞に続いて、意見交換会を行います。

春の研究討論会は、5月25・26日に川崎市産業振興会館で開催します。詳細は、次号ニュースでお知らせします。

新法人に伴う各委員会からのお知らせ

企画運営委員会

企画運営委員会は、一般社団法人廃棄物資源循環学会の目指すべき将来像である「物質循環と廃棄物管理に関する学の体系化」、「学術的立場から循環型社会の形成と廃棄物問題の解決に貢献」を具現化するため、各委員会との関係のもと、運営企画を推進しています。しかしながら、近年の会員収入の減少による収支不均衡に見られるように、財政基盤の整備と安定化が急務であり、会員にとって魅力ある学会運営による会員増強、事業内容の見直しによる支出の削減を引き続き実施してまいります。

また、一般社団法人化により、外部からの委託研究、委託調査が受けやすい状況となるため、環境整備を行い、積極的な収入の拡大を図るとともに、研究成果のアウトプットを通じて、学会の価値の向上に努めます。

企画の面からは、会員および学生・市民の要望を広く調査し、従来から実施しているセミナー、シンポジウム、見学会等を拡充します。また、研究会、シンポジウム等の成果をまとめた一般書籍3冊を廃棄物資源循環学会シリーズとして今春販売する予定で、今後も積極的な社会への貢献を進めてまいります。

編集委員会

編集委員会では平成20年から平成22年にかけて、学会誌、和文論文誌、英文論文誌について大きな変革を迎えています。平成20年度には学会論文誌の電子化を進めて、平成21年3月には法人化後の新学会名称で、「廃棄物資源循環学会論文誌」のオンラインジャーナルとしてWeb上に公開されることになります。平成21年度内には査読システムも電子化が始まる予定です。また論文誌が電子化されたことに伴い、「廃棄物資源循環学会誌」は平成22年1月号から単独発行となります。内容の充実と会員への情報提供のあり方を再検討して、新たな装いで発行してゆくことにしております。英文誌は平成21年から韓国廃棄物学会と連携して、年4回の発行が始まり、国際的な知名度が上がるのが期待されます。市民編集号C&Gは学会誌のNo.4(5月発行)に特集として新たにお目にかかります。産・学・官・市民参加の学会の活動として、会員への情報提供と社会への情報発信を担う編集委員会の活動に、今後とも会員の皆様のご協力をお願いいたします。

学術研究委員会

学術研究委員会の主たる活動は、秋の研究発表会と春の研究討論会です。これらを通して、会員の拡大、安定した収入の確保に貢献したいと考えています。わが国では法律によって一廃と産廃が区別され、それぞれ自治体と民間が処理する体制が出来上がっています。学会での発表は、大部分が一般廃棄物に関するも

のであり、産廃関係者の会員数も少ない状況です。産業廃棄物分野への活動の拡大を図るため、積極的にシンポジウム、研究発表の機会を用意する予定です。研究部会との協働も、考える余地があります。また、地方自治体で、一般廃棄物に直接携わっている職員の方の参加も増やさねばなりません。年会等での発表を聞いていると、発表内容が理論・理屈に流れ、“現場感”が薄いように感じるものが少なくありません。研究は、現場に役立たなければ意味がないと考えております。産廃関係者、自治体の発表・参加が増えることで、会員が現場を知る機会が増え、現実の問題に協力して当たることが可能になります。シンポジウム、研究発表の機会などのメリットを用意することが、会員数の安定した増加につながると考えています。

国際委員会

世界的な経済危機の下、廃棄物学会は創立20周年を迎えました。この20年間で、廃棄物を取り巻く社会状況も大きく変化し、「循環型社会」に向けた新しいスタイルでの学会活動が必要となっています。こうした中で廃棄物学会は、法人資格を取得すると共に、新しい学会名「廃棄物資源循環学会」と改名し、新たな活動を開始しました。

一方、経済発展著しいアジア諸国では、経済発展の裏にひそむ公害問題が徐々に顕在化している状況です。東京オリンピック前夜の日本の歴史を思いおこすと、まさに我国の発展プロセスにも似た状況とオーバーラップして実感するのは私一人ではないと思います。恐らく、近い将来、廃水、大気、廃棄物問題、資源エネルギーそして地球環境問題は、近隣アジアにおいて大きな社会問題になることが予想されます。

グリーン・ニューディール政策が叫ばれる中で、学官民市で構成される学会の果たす役割は大きく、アジア太平洋を視野に入れた新しい視点での学会活動も必要となると考えられます。廃棄物資源循環学会は、国際委員会が中心となり実行委員会の下でアジア太平洋の廃棄物専門家のネットワーク作りを目指して、2005年より「アジア太平洋廃棄物専門家会議」を開催しています。2009年は、9月16～18日に第6回SWAPI会議を名古屋で開催する予定です。また、これまでの「日韓シンポジウム」を発展させ「国際セッション」として衣替えしアジア太平洋諸国の会員の皆様に口頭発表の場を提供する予定です。

韓国廃棄物学会との連携強化並びに国際化等々、山積みする課題を前に新しい学会の発展のため努力する所存です。

会員の皆様の多大なるご支援とご協力をお願い致します。

廃棄物学会・廃棄物資源循環学会1年の歩み

平成 20 年（2008 年）の活動状況

平成 20 年（2008 年）12 月 1 日、かねてから準備されてきた法人化が現実となり、一般社団法人廃棄物資源循環学会が設立されました。学会として最も大きなニュースであったと思われます。社会では経済危機、地震やサイクロン、ガソリンや食品価格の高騰など、不安なニュースが多かった年でしたが、学会にとっては、多くの学会活動が成功裏に終了し、法人化を達成するという喜ばしい年であったといえます。また、洞爺湖サミットも開催され、国民の環境への関心が高まった年でもありました。

下記に平成 20 年の活動状況を取りまとめました。6 月に総会・研究討論会が東京都千代田区で開催され、第 10 期の会長、副会長、理事、監事ら役員を選出が行われ、法人化へ向けた議論が実施されました。同日から開催された研究討論会では、これまで以上に参加型の行事とするためポスターセッションが導入され、活発な意見交換が行われました。各支部での活動も例年通り盛んに実施され、研究発表会やセミナーが各地で開催されました。第 4 回、第 5 回とアジア太平洋廃棄物専門家会議（SWAPI）が 2 回実施され、アジアにお

ける各国の研究者や実務者のネットワークの組織化が進められました。また、第 5 回アジア太平洋埋立国際会議（APLAS）も札幌市で開催され、学会がアジアにおける廃棄物、資源循環研究の拠点としての役目を果たした年であったと思われます。11 月に第 19 回研究発表会が 6 年ぶり 2 回目となる京都で開催されました。学術研究発表のみではなく、2R 推進活動や、市民展示等が開催され、延べ 100 人の市民にご来場いただきました。市民の皆様との交流も深まり、廃棄物や資源循環のことをより良く理解していただく良い機会となったと感じられます。

今年は廃棄物学会設立から 20 年目の節目の年を迎えますが、そればかりでなく、一般社団法人廃棄物資源循環学会として法人化 1 年目の重要な年になると思います。学会のさらなる飛躍と社会貢献、環境活動のため、昨年と同様に活発な活動を通して実りある議論を重ねていけることを望んでいます。会員の皆様にも各活動に積極的にご参加いただくなど、いっそうのご協力をお願い申し上げます。

（企画運営委員会広報部会 遠藤和人）

平成 20 年（2008 年）の活動状況

月 日	行 事	開催場所	テ ー マ ・ 内 容
平成 20 年 1 月 22 日	企画運営委員会 平成 19 年度技術セミナー	東京都 江東区	「廃棄物のトレーサビリティ先端技術と導入事例」
2 月 21 日	企画運営委員会 特別セミナー	東京都 港区	「廃棄物処理・資源化事業における金融の役割と可能性」
2 月 29 日	中国四国支部 中国四国支部セミナー in 山陰	松江市	「水環境の保全・修復と資源循環型技術」
3 月 14 日	企画運営委員会 廃棄物学会主催シンポジウム	東京都 港区	「プラスチック廃棄物とリサイクルそして安全」
3 月 22 日	東海・北陸支部 平成 19 年度市民フォーラム	名古屋市	「災害廃棄物について学ぶ＝実態・対策・そして備え＝」
3 月 29 日	関西支部 法制度セミナー	京都市	「第 5 回廃棄物法制度に関するセミナー」
5 月 8 日 ～10 日	国際委員会 韓国廃棄物学会 2008 年春季学術研究発表会	韓国 順天市	韓日特別シンポジウム、ポスターセッション
5 月 16 日	中国四国支部 講演会	広島市	テーマ：「これからの環境研究を考える」
6 月 7 日	九州支部 平成 20 年度廃棄物学会九州支部総会	福岡市	平成 19 年度事業報告、収支決算報告、監査報告 平成 20 年度活動計画案、収支予算案 平成 20～21 年度知事候補者審議
6 月 11 日	平成 20 年度廃棄物学会総会、平成 19 年度廃棄物学会章表彰式	東京都 千代田区	平成 19 年度事業報告、収支決算報告、監査報告 平成 20 年度事業計画(案)、収支予算(案) 第 6 号議題「廃棄物学会の法人化の件」が承認
6 月 11 日 ～12 日	平成 20 年度廃棄物学会研究討論会	東京都 千代田区	アスベスト測定、バイオマス利用、循環型社会形成基本計画の見直し、廃棄物管理システムの広域化、社会システムとしての持続可能な最終処分 等 5 件
6 月 26 日	中国四国支部 平成 20 年度廃棄物学会中国四国支部総会・講演会	岡山市	平成 19 年度事業報告、収支決算報告、会計監査報告 平成 20 年度事業計画、予算計画 講演会 2 件

月 日	行 事	開催場所	テ ー マ ・ 内 容
7 月 7 日 ～9 日	第 34 回主要国首脳会議（北海道洞爺湖サミット）	北海道 洞爺湖町	
7 月 12 日	関西支部 市民と学生のためのセミナー	大阪市	テーマ：「食とごみ」 講演 2 件
7 月 16 日	東北支部 平成 20 年度廃棄物学会東北支部総会・講演会	仙台市	平成 19 年度事業報告、会計報告 平成 20 年度事業計画(案)、予算(案)、役員人事 講演会 4 件
7 月 16 日 ～18 日	第 4 回アジア太平洋廃棄物専門家会議（SWAPI）	横浜市	SWAPI の体制・活動等議論、公開セミナー、事例発表、 パネルディスカッション
8 月 29 日	北海道支部 見学会	北海道 洞爺湖町他	洞爺湖温泉利用共同組合、北海道糖業(株)道南製糖所、 白老町炭化処理システム、(株)エポック・サービス
10 月 3 日	東海・北陸支部 見学会	豊田市	テーマ「＜全国に完成した PCB 処理施設＞東海地方に おける PCB 処理施設について」、日本環境安全事業(株) JISCO 豊田事業所、トヨタ会館
10 月 9 日	東北支部 第 1 回廃棄物学会東北 支部研究発表会	仙台市	口頭発表 15 件（2 セッション）
10 月 10 日 ～11 日	若手の会 平成 20 年度若手の会研究合宿	京都市	研究推進、活動資金確保、学会会員、若手の会会員につ いて
10 月 22 日 ～24 日	第 5 回アジア太平洋埋立国際会議 （APLAS）	札幌市	基調講演、口頭発表 62 件、ハイブリッド発表 40 件、ポ スター発表 33 件
11 月 12 日 ～13 日	第 5 回アジア太平洋廃棄物専門家 会議（SWAPI）・韓国廃棄物学会 25 周年記念大会	韓国 仁川	国際シンポジウム、テクニカルツアー、基調講演
11 月 19 日	若手の会 総会	京都市	運営体制、決算予算報告、活動報告、役員交代
11 月 19 日 ～21 日	学術研究員会 第 19 回研究発表会	京都市	研究発表（発表件数 337 件、国際ポスターセッション）、 特別プログラム、国際シンポジウム、小集会
11 月 29 日	北海道支部 平成 20 年度廃棄物学 会北海道支部セミナー	札幌市	口頭発表 10 件（2 セッション）、基調講演
12 月 1 日	一般社団法人廃棄物資源循環学会 設立		

2009年度韓国廃棄物学会研究発表会のお知らせ

- 開催日時
2009 年 5 月 14 日（木）、15 日（金）
- 開催日程
□5 月 14 日（木）
➢ 韓日共同特別シンポジウム
"Biomass Town and Waste to Energy Technology"
➢ 第 13 回韓日廃棄物学会共同学術発表会（英文ポ
スター発表）
□5 月 15 日（金）
➢ 学術研究発表会（口頭及び韓国語ポスター発表）
- 開催場所
大邱広域市 EXCO.(<http://www.excodeagu.co.kr>)
- 発表区分
口頭発表/ポスター発表（韓国語または英語）
及び展示
- 原稿執筆方法
(1)任意の A4 版白紙片面に、上 30mm、下 20mm、
左右に 20mm の余白をそれぞれとり、その枠内に
42 行程度のピッチで英文のみで記入する。
(2)原稿は 3 ページ以内とする。
(3)第 1 ページは、1 行目に題目を用紙左端より 45mm
以上あけて書き出し、1 行あけて著者名及び勤務先
名を右側に寄せて書き、1 行あけて本文を書き出
す。第 2 ページ以降は 1 行目から書く。
- (4)本文等の文字は原則として Times New Roman の
12 ポイント（黒字のみ）とし、題目には本文より
も大きな文字を用いる。
- (5)図表や写真は、原則として原稿の適当な位置に直
接貼り付けるものとし、別ファイルにしない。カ
ラーの写真や図表については、印刷論文集が白黒
印刷となることを考慮して、明瞭なものとする。
- (6)第 1 ページの末尾に左端から右端まで区切り線
を入れ、代表連絡者氏名、連絡先、電話番号、E-Mail
等を記入する。
- (7)Adobe Acrobat を使用して PDF 化する。
6. ポスタータイトル締切
2009 年 3 月 13 日（金）
7. ポスター論文締切
2009 年 3 月 27 日（金） 必着
8. タイトル・論文提出先
韓国廃棄物学会事務局 kswes@hitel.net
9. 問合せ先
一般社団法人廃棄物資源循環学会事務局
TEL : 03-3769-5099
E-Mail : jimu@jsmcwm.or.jp

学会のホームページアドレス、メールアドレスが変わります。

jswme.gr.jp から jsmcwm.or.jp へ

廃棄物学会から一般社団法人廃棄物資源循環学会への移行にともない、ホームページアドレス、メールアドレスも変わります。廃棄物学会のアドレス (jswme.gr.jp) は、日本国内の任意団体が利用できる「gr.jp」ドメインを使用していました。一般社団法人廃棄物資源循環学会に移行したことにより、日本の国内法に基づく法人が利用できる「or.jp」ドメインとなりました。新アドレスは、「jsmcwm.or.jp」です。

あわせて、ホームページ機能の強化を行いました。これまで、少ないサーバー容量をやりくりしていましたが、新サーバーは大容量のものになりました。各支部や研究部会には、300MBの容量を割り当てています(Webに200MB、メールに100MB)。GoogleのGmail等と比べると、まだまだ少ない容量ではありますが、これまで以上に充実した情報発信と情報交換が行えるものと思います。

現在、各委員会、支部、研究部会等において、移行作業を進めています。3月末には、旧ドメインを停止して、新ドメインに一本化します。お早めに、ブックマークの更新とアドレス帳の書換えをお願いします。

(企画運営委員会広報部会 松本礼史)



<http://jsmcwm.or.jp/>

E-mailアドレス情報のご提供のお願い

本年1月に、一般社団法人廃棄物資源循環学会・会員証をお送りした際に、お知らせしておりますが、学会事務局が管理しております会員データベースを拡充し、E-mailアドレス情報を加えることといたしました。これは、学会員の利便性向上や学会事務の合理化の観点から、今後の学会からのご連絡や情報提供を、徐々にインターネット経由に移行することを想定したものです。つきましては、学会員のみなさま全員にE-mailアドレス情報のご提供をお願い申し上げる次第です。まだご連絡いただいていない会員の方は、学会事務局名簿管理係宛に、E-mailアドレスをお知らせ下さい。ご提供いただいたE-mailアドレス情報は、本学会で管理しております会員データベースに登録され、下記のような目的・範囲で使用いたします。

■ご提供いただくE-mailアドレス情報の使用目的

- ・本学会（本学会の下部組織を含む。以下同様）から会員のみなさまへのご連絡・各種情報のご提供
- ・本学会で今後運用するメーリング・リスト等へのご登録(理事会が承認したものに限る)

なお、今回ご提供いただきますE-mailアドレス情報を含めた学会員のみなさまの個人情報につきましては、適正な管理に留意して取り扱ってまいります。

■連絡方法：E-mail

ご連絡いただくアドレスが利用できることの確認を兼ねておりますので、下記でご連絡いただくアドレスよりメールをお送りいただきますようお願い致します。

(1)連絡先： meibo@jsmcwm.or.jp (学会事務局名簿管理係)

(2)メールタイトル： アドレス連絡

(3)連絡内容： ①氏名、 ②所属、 ③E-mailアドレス、 ④会員番号

※学会からのご連絡が普段確認できるE-mailアドレスをご記入ください。

※添付ファイルを送る可能性があるため、携帯電話のアドレスではなく、パソコンでご覧になるアドレスをご連絡ください。

【お知らせ】

廃棄物資源循環学会主催シンポジウム 資源確保競争下での国際資源循環のあり方を考える

- 開催期日 平成 21 年 3 月 31 日 (火) 13 時～17 時
- 開催場所 川崎市産業振興会館ホール
(JR 川崎駅西口、徒歩 7 分)
- 概要
 - 基調講演「国際資源循環の現状とわが国の課題」(仮)
石川雅紀氏 (神戸大学大学院経済学研究科教授・産業構造審議会廃棄物・リサイクル小委員会国際資源循環 WG 委員)
 - パネルディスカッション「資源確保競争下での国際資源循環のあり方を考える」
●パネリスト
寺園 淳氏 国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター国際資源循環研究室室長
岡部 徹氏 東京大学教授、生産技術研究所 サステイナブル材料国際研究センター
中村繁夫氏 アドバンス マテリアル ジャパン社長
梅田 靖氏 大阪大学大学院工学研究科教授
石川雅紀氏 神戸大学大学院経済学研究科教授
●コーディネーター
川本克也氏 国立環境研究所循環型社会・廃棄物研究センター資源化・処理処分技術研究室室長、廃棄物資源循環学会企画部会長
 - 参加費 会員 3000 円 (非会員 4000 円)
 - 参加申込方法 学会事務局まで FAX で申込み下さい。

「公益信託 奥村組建設環境助成基金」 平成 21 年度助成金給付対象者の募集

- 助成対象
建設環境に係る環境負荷低減に関する諸研究等
- 資格
大学、その他研究機関に常勤で在職し、建設に係る環境技術に関する研究活動に従事している研究者
- 助成額：100 万円×4 件程度
- 募集期間：平成 21 年 4 月 1 日 (水) ～5 月 31 日 (日)
- 問合せ：りそな銀行信託サポートオフィス
TEL：03-5223-1171
http://www.resona-gr.co.jp/resonabank/kojin/service/tsukau/kanri_unyo/koken/index.html#s19

会 員 状 況		H21.1.31 現在 ()内は、H20.4.1 以降の増減
正 会 員		2,973 (+16)
学生会員		316 (+60)
外国人会員 (DM)		24 (+5)
登録団体市民会員		7 (+2)
公益会員		99 (±0)
賛助会員		134 (-8)
計		3,553 (+75)

注) 外国人会員(DM)は、廃棄物学会外国人等会員規程第 4 条に定める会員を示す。

廃棄物学会ニュース No.109 平成 21 年 3 月 10 日発行
一般社団法人廃棄物資源循環学会
〒108-0014 東京都港区芝 5-1-9 豊前屋ビル 5F
Tel.03-3769-5099 Fax.03-3769-1492 <http://jsmcwm.or.jp>
印刷媒体は古紙を配合した再生紙を使用しています

<JSMCWM Newsletter No.68 (April)>

学会組織名称変更により、英文名称は、Japan Society of Material Cycles and Waste Management (JSMCWM) となりました。英文ニューズレターでは、学会ロゴは、新デザインが出来上がるまでは従来のものを採用しますが、テーマや編集方針は、新組織にあわせ順次新しいものにしていきます。今号では、組織名称変更を受け、国際委員会委員長からご挨拶させていただいております。
(主要目次)

巻頭 (組織名称変更について)
日本における硫化水素問題
エルサルバドルの廃棄物管理
若手の会活動報告
RO9 名古屋

Contents of JSMCWM NL No.68

- Society's name has been changed!
 - Problems of hydrogen sulfide in Japan
 - JOC Project: solid waste management in El Salvador
 - Introduction of "RO9 Nagoya"
- ※JSMCWM Newsletter は電子配信のみとなっています。
最新号、バックナンバーは学会ホームページから入手できます。

☆☆事務局だより☆☆

学会は「一般社団法人廃棄物資源循環学会」に衣替えをし、次年度を迎えようとしています。まだ何が変わったかを実感することはできませんが、社会的責任が重くなったこと、学会をしっかりと維持・発展させていかなければならないことを感じています。この学会ニュース発刊を担当している広報部会も一般社団化に伴い、ホームページの改訂、一般社団化情報の業界紙へ掲載依頼等を行ってきました。そして、次年度は社会により広く認知していただくよう、更に広報活動を活発に行うことを計画しています。

メールニュースを皆様のご理解を得て、メール登録者全員に配信すること、新しい学会ロゴを学会員への公募により作成すること、イベント等の開催を業界紙などの連携を深め、より広く広報すること、等を計画しています。現在、広報部会員は 6 名ですが、そのためにメンバーの増強を考えております。皆様のご協力をぜひお願いいたします。

最後にお知らせですが、一般社団法人化とともに新しいパンフレット 5000 部を印刷するとともに、新しい学会ホームページ (<http://jsmcwm.or.jp>) に掲載しております。会員の皆様には、これを出力していただき、当学会への入会勧誘にご活用いただければ幸いです。

(片柳健一 記)

平成 21 年度会費の請求書類は、4 月 1 日頃から発送いたします。お早めの支払を、お願いいたします。
平成 21 年度総会資料は、5 月上旬の発送予定です。

次号(学会ニュース No.110)は 5 月 12 日発行予定です。
※学会ニュースはホームページに掲載しています。印刷版の郵送が不要になった場合には、事務局までご連絡ください。